



美しい 県土づくりNEWS

2016年
11月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第148号
平成28年12月7日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 除雪作業にご協力をお願いします！！
- 3 砂防ボランティア岩手県協会による土砂災害危険箇所緊急点検結果報告
- 4 復興道路の新たな開通見通しが発表
- 5 岩手県内の復興道路等の概要
- 6 復興道路の整備効果 岩手県で年間540億円
- 7 いわてリノベーションスタディ開催報告
- 8 名古屋地区にて、花巻＝名古屋線をPR！
- 9 県土整備部の職場紹介 ～建設技術振興課～
- 10 県土整備部の職場紹介
～県南広域振興局土木部一関土木センター～

冬道の安全な交通を支える除雪機が出動！

11月24日、久慈地域合同（国・県・市）除雪機械安全祈願祭・出動式を開催しました。これから冬本番、除雪作業に万全を期し、冬期の道路交通の安全確保に取り組んでいきます。

皆さんも、冬タイヤ交換など冬道への備えを早めに行い、余裕を持った運転を心掛けていただくとともに、各地域での除雪作業にご理解とご協力をお願いします。



除雪機の出動を見送る子供たち。式典には国・県・市・警察・除雪作業関係者・久慈市立長内小学校児童合わせて約130名が参加しました。

がんばってー！！

除雪作業にご協力お願いします！！



県では、冬期間の安全で円滑な道路交通を確保するため、
県が管理している道路の除雪作業を行っています。
作業をスムーズに行えるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

門口除雪にご協力を！

各商店・各家庭から道路へ出る門口に寄せられた雪については、各家庭・ご近所等での除雪にご協力をお願いいたします。

道路への雪出しはやめましょう！

道路への雪出しは、**路面凍結**の原因となるほか、路面が凸凹になり非常に危険で、**交通事故**や**渋滞**の原因にもなります。

深夜・早朝作業にご理解を！

除雪作業は、朝の通勤・通学に間に合うよう、主に交通量の少ない夜間や早朝に行います。作業中は騒音・振動等でご迷惑をおかけしますが、ご理解くださるようお願いいたします。

路上駐車はやめましょう！

路上駐車は、**除雪作業の妨げ**となります。また、**車の乗り入れ板**や**看板等**も障害物となり、危険です。



除雪車に注意!!

- 除雪作業は安全第一で行っていますが、**作業中の除雪車は大変危険**です。近づかないでください。
- 除雪車は場合によって、道路のセンターラインを越えて作業をすることがあります。車等で走行する際もご注意ください。

<お問い合わせ先>

県土整備部道路環境課 019-629-5880
または
最寄りの広域振興局土木部、土木センターへ

路面凍結に注意!!

- 路面凍結により通行に支障がある場合又は支障になると予想される場合に、凍結抑制剤を散布していますが、**気象条件等により路面が凍結している場合がありますので、通行の際は、十分にご注意ください。**

岩手県道路情報提供サービス

PC向け
<http://www.douro.com/>



スマホ向け
<http://www.douro.com/sp/>



砂防ボランティア岩手県協会による 土砂災害危険箇所緊急点検結果報告

砂防災害課

1 概要

台風第10号により土砂災害が広範囲に多数発生したことから、県では砂防ボランティア岩手県協会に対し「土砂災害危険箇所緊急点検」実施の支援を要請しました。

県の要請を受け、協会は、9月5日から13日、9月28日から10月4日の2回にわたり、延べ57名による72箇所の緊急点検を実施。点検結果については、10月17日に協会の小林会長から及川県土整備部長へ報告書が手渡されました。

※砂防ボランティアは、県職員OBを含む、砂防に理解や知識のある方々により組織され、危険箇所の点検パトロールや、砂防意識を高める講演等様々な活動を行っています。

2 点検結果

土砂災害危険箇所緊急点検は、現地調査により「ランクA：直ちに応急対策が必要」、「ランクB：再点検後対応を決定」、「ランクC：緊急性が低い」等を判断するもので、今回の点検結果は下表のとおりです。

<点検結果（危険度ランク別）>

(箇所)

	急傾斜	土石流	計	備考
ランクA	2	9	11	A：直ちに応急対策が必要
ランクB	3	6	9	B：再点検後対応を決定
ランクC	29	23	52	C：緊急性が低いもの
合計	34	38	72	

3 今後の対応

ランクAの箇所については、災害関連緊急砂防事業による砂防堰堤の整備や、県単事業による応急対策等を実施する予定です。

また、ランクBは県が再点検をした結果、いずれの箇所も被害の拡大や二次災害発生のおそれも低いと判断されたことからCランクに変更しました。

砂防ボランティア岩手県協会には、豊富な知識と経験や年齢を感じさせないパワーにより、迅速かつ的確に緊急支援を実施していただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

今後も、同協会と連携しながら、災害時等における協力体制の強化を図るとともに、土砂災害防止活動の推進に努めていきます。

砂防ボランティアによる緊急点検の様子



宮古市茂市

結果報告する小林会長（左）と及川部長（右）



復興道路等の新たな開通見通しが発表

～県内約9割の開通見通しが明らかに～

道路建設課

国の復興のリーディングプロジェクトとして
かつてないスピードで整備が進められている
復興道路等について、平成28年10月28
日、国土交通省から新たな開通見通しが公
表されました。

今回の発表では、三陸沿岸道路「尾肝要
普代(おかんようふだい)道路 8.0 km」など、
県内5区間約46.8 kmの開通見通しが
示されました。

これまでに開通した区間と開通見通し
発表済の区間を合わせると、平成32年度
までに県内の約321 km、約9割が供用と
なる見込みです。

一方で、未だ開通見通しが示されていない
区間が残されています。

県では、被災地の復興に遅れが生じること
のないよう、引き続き国、市町村と連携を
図りながら各種調整に取り組んでいくと
ともに、開通見通し未発表区間を含めて
復興道路等の早期の全線完成を国に働き
かけていきます。

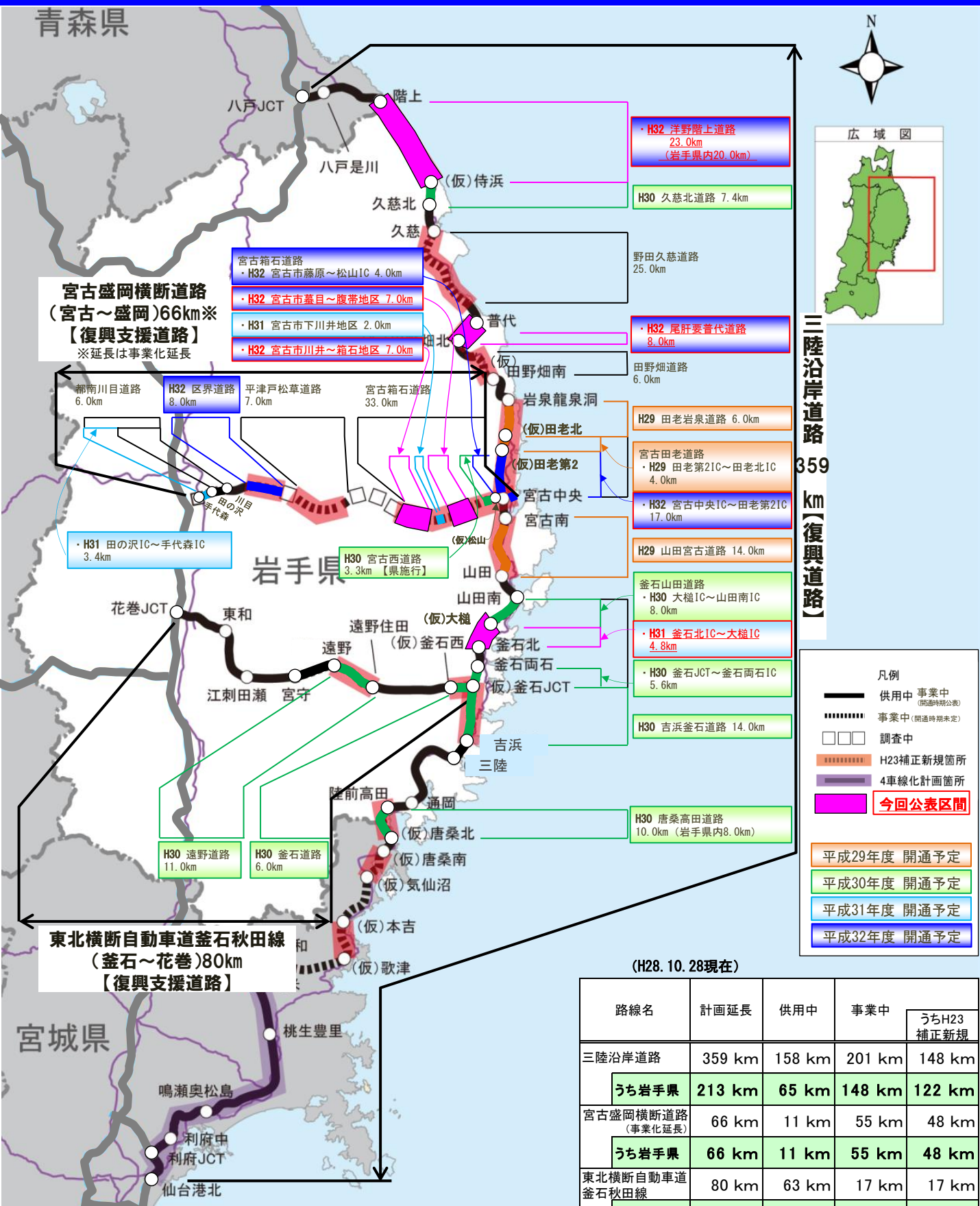
平成32年度の開通に向けて工事の進む三陸沿岸道路「尾肝要普代道路」

【県内の復興道路等の開通見通し】

開通予定	路線	区間	延長
平成29年度	三陸沿岸道路(山田宮古道路)	山田IC～宮古南IC	14.0km
	三陸沿岸道路(宮古田老道路)	(仮称)田老第2IC～(仮称)田老北IC	4.0km
	三陸沿岸道路(田老岩泉道路)	(仮称)田老北IC～岩泉龍泉洞IC	6.0km
平成30年度	三陸沿岸道路(唐桑高田道路)	(仮称)唐桑北IC～陸前高田IC (うち岩手県内)	10.0km (8.0km)
	三陸沿岸道路(吉浜釜石道路)	吉浜IC～(仮称)釜石JCT	14.0km
	三陸沿岸道路(釜石山田道路)	(仮称)釜石JCT～釜石両石IC	5.6km
	三陸沿岸道路(釜石山田道路)	(仮称)大槌IC～山田南IC	8.0km
	三陸沿岸道路(久慈北道路)	久慈北IC～(仮称)侍浜IC	7.4km
	東北横断自動車道釜石秋田線 (釜石道路)	(仮称)釜石JCT～(仮称)釜石西IC	6.0km
	東北横断自動車道釜石秋田線 (遠野道路)	遠野住田IC～遠野IC	11.0km
	宮古盛岡横断道路(宮古西道路) 【岩手県施行】	(仮称)松山IC～(仮称)根市IC	3.3km
	平成31年度	◆三陸沿岸道路(釜石山田道路)	釜石北IC～(仮称)大槌IC
宮古盛岡横断道路(宮古箱石道路)		宮古市下川井地区	2.0km
宮古盛岡横断道路(都南川目道路)		田の沢IC～手代森IC	3.4km
平成32年度	三陸沿岸道路(宮古田老道路)	宮古中央IC～(仮称)田老第2IC	17.0km
	◆三陸沿岸道路(尾肝要普代道路)	(仮称)田野畑北IC～普代村第11地割	8.0km
	◆三陸沿岸道路(洋野階上道路)	(仮称)侍浜IC～階上IC (うち岩手県内)	23.0km (20.0km)
	宮古盛岡横断道路(宮古箱石道路)	宮古市藤原～(仮称)松山IC	4.0km
	◆宮古盛岡横断道路(宮古箱石道路)	宮古市曇目～腹帯地区	7.0km
	◆宮古盛岡横断道路(宮古箱石道路)	宮古市川井～箱石地区	7.0km
	宮古盛岡横断道路(区界道路)	宮古市区界～盛岡市築川	8.0km
		県内計	168.5km

◆は、H28.10.28 開通見通し発表区間

岩手県内の復興道路等の概要



三陸沿岸道路 359 km【復興道路】

凡例

- 供用中 事業中 (開通時期公表)
- 事業中 (開通時期未定)
- □ □ □ 調査中
- H23補正新規箇所
- 4車線化計画箇所
- 今回公表区間

平成29年度 開通予定
平成30年度 開通予定
平成31年度 開通予定
平成32年度 開通予定

(H28. 10. 28現在)

路線名	計画延長	供用中	事業中	うちH23補正新規
三陸沿岸道路	359 km	158 km	201 km	148 km
うち岩手県	213 km	65 km	148 km	122 km
宮古盛岡横断道路 (事業化延長)	66 km	11 km	55 km	48 km
うち岩手県	66 km	11 km	55 km	48 km
東北横断自動車道釜石秋田線	80 km	63 km	17 km	17 km
うち岩手県	80 km	63 km	17 km	17 km
合計	505 km	232 km	273 km	213 km
うち岩手県	359 km	139 km	220 km	187 km

復興道路の整備効果 岩手県で年間540億円

—一般財団法人岩手経済研究所が試算—

県土整備企画室・道路建設課

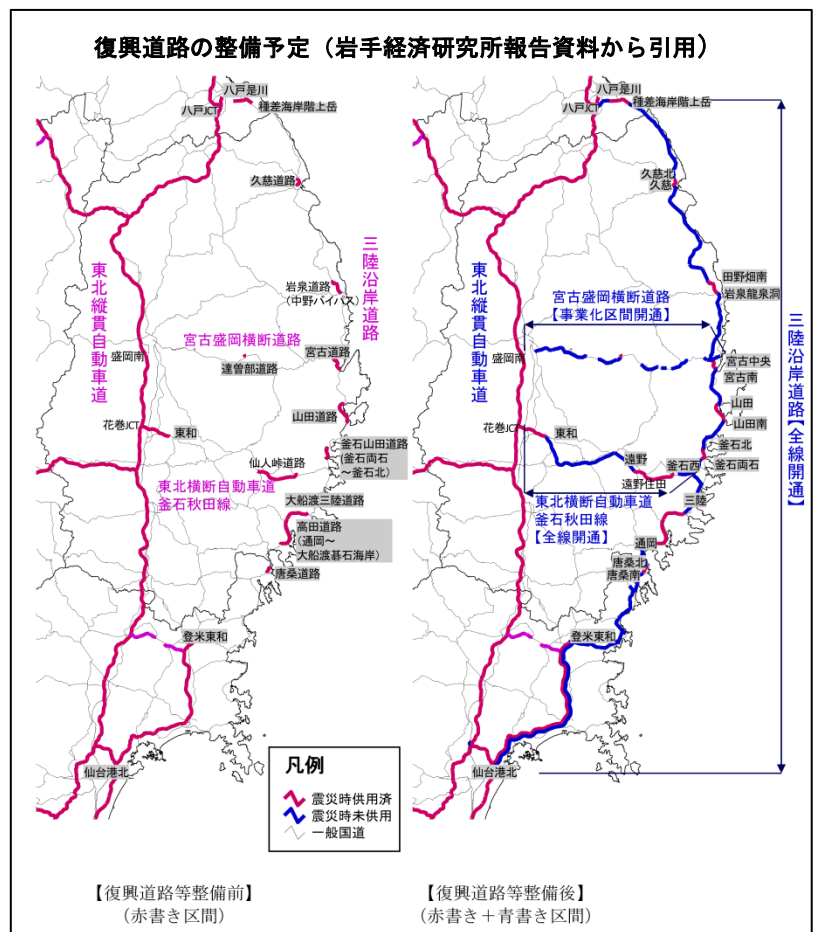
一般財団法人岩手経済研究所は、復興道路の整備に伴う岩手県や全国への経済波及効果を分析し、**県内では年間当たり540億円の経済効果**が見込まれるという試算結果を発表しました。

復興道路として整備が進んでいる**三陸沿岸道路**（宮城県仙台港北IC～青森県八戸JCT）や、**宮古盛岡横断道路**（宮古～盛岡）、**東北横断自動車道釜石秋田線**（釜石JCT～花巻JCT）が完成することで、移動時間の大幅な短縮が図られます。

これにより、三陸の海産物を内陸部や首都圏に運びやすくなったり、県内外からの観光客が来やすくなったりすることで、三陸を中心とする地域の生産・消費が増加し、さらに、経済活動が活発になることで、雇用の増加や所得の向上、さらなる経済の拡大へと波及していくことが見込まれます。

研究所では、整備前と比べた時短効果を、**仙台港から八戸まで3時間10分、宮古市から盛岡市まで30分、釜石市から花巻市まで25分の時間短縮**と想定し、「空間応用一般均衡モデル」という経済モデルに当てはめて、道路整備に伴う経済波及効果を分析しました。その結果、**岩手県内では年間540億円の総生産増加（県内総生産の1.1%に相当）、東北では年間760億円、全国では1,090億円といった経済波及効果**が算出されました。

復興道路の完成に向けては、国による開通見通しが新たに示され、着実に整備が進んでいるところですが、引き続き、早期全線開通に向けて、国や市町村と連携して取り組んでいきます。



※詳細は、岩手経済研究所による報告資料を参照してください。（H28.11.29 復興道路の整備に伴う経済波及効果について

http://www.iwatekeizai.org/wp-content/uploads/pr/pr_revivalroad_20161129.pdf

いわて リノベーションスタディ 開催報告【建築住宅課】

平成28年11月1日(火)～2日(水)



—民間と行政が連携し、私たちの地域や岩手県全体の課題を解決する「ビジネス」を興す。
しかもそのビジネスを、行政が所有する公共建築物や公共空間を使って行う—

「いわてリノベーションスタディ」は、これまでの行政の取組ではあり得なかったこれらのことを本気で行うべく、公民連携のための体制整備と人材育成を目的として、2日間にわたり開催しました。

講師には、この趣旨に賛同していただいた、全国各地でまちづくりを先導する大嶋芳彦氏、西村浩氏、明石卓巳氏、嶋田洋平氏、岡崎正信氏が駆け付け、具体的な事業を組み立てる「実践」の場とするためのサポートをしていただきました。

受講者は32名。民間人と公務員を半数ずつ募集しましたが、どちらも「自らまちを変えよう！」という強い志を持った方々で、あっという間に定員に達しました。

スタディでは、盛岡市が所有する「旧紺屋町番屋」と、岩手県が所有する「内丸緑地」を対象案件とし、民間人と公務員混成によるそれぞれのチームが、地域を変えるビジネスをとことん考え事業計画を組み立てながら、それを実現するために必要な法令や手続きについても検討しました。

検討の成果は公開でプレゼンテーションを行い、紺屋町番屋を演芸場としてリノベーションし、庶民のまちのイメージを生かして周辺エリアを活性化するアイデアや、内丸緑地をマルシェやバルなどで人が集まるエリアとしてリノベーションし、民間の参加を促すことにより周辺エリアを活性化させるアイデアについて、事業収支や実施主体等も踏まえた計画が提案されました。

民間主導のまちづくりを推進するためには、行政の意識改革はもちろんですが、「自分のまちは自分で作る！」という、みなさん自身の意識改革と行動力が不可欠です。一見難しそうですが「まちを使う」「まちを楽しむ」ことがその第一歩。今回の受講者を中心に今後取組を加速させていきますので、みなさんも自分のまちを楽しんでください。



名古屋地区にて、花巻＝名古屋線をPR！

空港課

銀河のしずく、さんさ踊りなど岩手をPR「ユニー岩手県フェア」

10月27日(木)から11月1日(火)まで、名古屋地区のアピタ千代田橋店とアピタ空港店で「ユニー岩手県フェア」が開催され、県産オリジナル品種米「銀河のしずく」等の県産食品が販売されました。

これにあわせ、10月29日(土)、10月30日(日)の2日間、アピタ空港店のあるエアポートウォーク名古屋でステージイベントを開催。「岩手まるごとおもてなし隊」、「いわて純情むすめ」、FDA 客室乗務員らが、さんさ踊りの披露やクイズ大会等により、花巻＝名古屋線のPRを行いました。



おもてなし隊との、じゃんけん大会で盛り上がる会場

そばっちも岩手をPR！「名古屋空港 空の日記念イベント」

全国各地の「ゆるキャラ」が集合！



11月12日(土)に、エアポートウォーク名古屋で、愛知県主催の標記イベントが開催され、本県をはじめ、青森県、山形県、高知県、島根県、北九州市の5県1市が参加し、各県市の観光PRを行いました。イベントでは全国各地のゆるキャラが集結し、賑やかなPRが行われました。

本県は、県産菓子詰合せが当たるガラポン抽選会や、「岩手まるごとおもてなし隊」によるさんさ踊りの披露やクイズ大会などを行い、ガラポン抽選会は行列ができるほど盛況となりました。さらに、おもてなし隊から観光パンフレットを手渡すなどして、来場者の皆様に岩手の魅力をお伝えしました。



おもてなし隊と来場者のふれあい



県土整備部の職場紹介 No.10 建設技術振興課

県土整備部は、「県民から信頼される県土づくり」を目指して、各室課がそれぞれの役割を果たしています。各室課が取り組む課題や業務を毎月ご紹介します。

組織の概要

建設技術振興課では、東日本大震災津波からの復旧・復興事業の円滑な執行の支援、建設企業の経営安定・技術力の向上、経営革新の取組の支援、県営建設工事（建設関連業務）の品質向上、それを担う職員のスキルアップの推進を目的として、施工確保対策に係る制度の策定・運用や建設関連団体等との意見交換、積算研修や安全管理研修の実施など、幅広い業務を担当しています。

建設業振興担当

建設業法に基づく建設業許可や監督処分を担当するほか、円滑な受発注環境を構築するための支援として、建設工事・建設関連業務の競争入札参加資格者名簿を作成し、運用しています。特に建設関連業務においては、電子入札システムを導入し、入札参加者の資格設定や公告、落札までの業務を担当しています。

また、建設業のイメージアップと担い手の育成・確保に向けた取組の一環として、「いわて建設業みらいフォーラム」を開催しています。フォーラムでは、地域振興で建設業が果たす役割や、そこで働く魅力について、県民、特に学生や生徒など、若者に対して発信し、建設業を取り巻く課題についても議論しています。



いわて建設業未来フォーラムの様子(H27)

技術企画指導担当

主に東日本大震災津波からの復旧・復興事業の円滑な執行の支援として、施工確保対策に係る制度を策定し運用しています。具体的には、業界団体等との意見交換や情報共有等による入札不調への対応や、沿岸各地域の施工確保対策連絡調整会議による資材の需給見通し、土砂流用の調整を行っています。

また、建設工事・建設関連業務の品質向上とそれを担う県の技術職員のスキルアップのため、新採用職員から採用4年目までを対象とし、計画的に研修しているほか、積算システムの運用や安全管理に関する専門研修を実施しています。中でも、土工の情報化施工など建設現場におけるICT技術の活用が本格化していることから、建設ICT^(※)の最新動向を理解し今後の監督業務等に役立てることを目的として、平成28年7月に「建設ICT講習会」を開催しました。

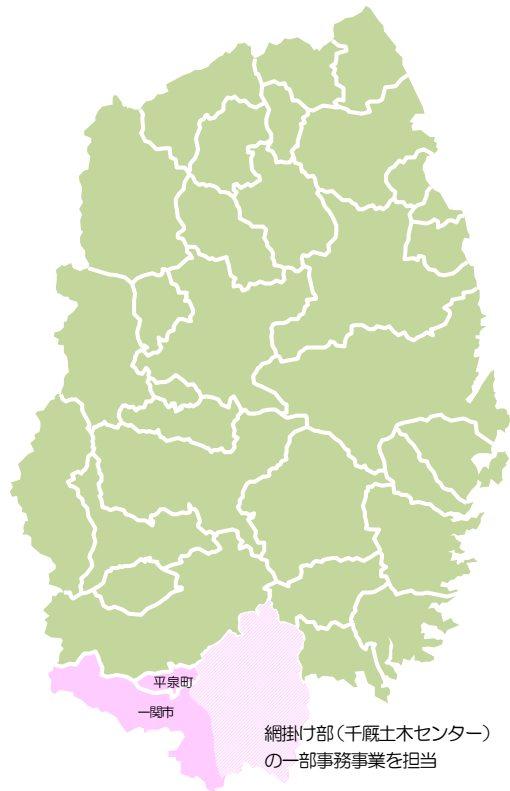


建設ICT講習会の様子

※建設ICT：調査・設計・施工・維持管理・修繕の一連の建設生産システムにおいて効率化及び高速化による生産性向上に寄与する情報通信技術のこと

県土整備部の職場紹介 No.11

県南広域振興局土木部一関土木センター



地域概要

一関土木センターは岩手県の最南端に位置し、所管区域は**一関市**（千厩土木センターが所管する区域を除く。）と**平泉町の1市1町**を担当しています。

当該地域は、世界遺産である平泉を中心に古くから経済・文化が発展し、近年は、岩手県の南の玄関口として、隣接する秋田県・宮城県との県際交流の地となっています。

東日本大震災津波以後、沿岸部の復旧・復興を支える復興支援道路の整備を喫緊の課題として取り組んでいます。

組織体制

○平成28年度組織キャッチフレーズ

～ともに築こう いわいの未来～

○組織の特徴

当センターの組織は、**所長以下5課及び1担当**（管理課・用地課・道路整備課・道路河川環境課・建築指導課・企画担当）で構成され、職員数は、正職員30名と臨時職員等18名を加え、**総勢48名の体制**です。

なお、用地課・道路整備課・建築指導課は、千厩土木センター所管区域の事務・事業についても担当します。

今年度の主な取組

1. 一般国道284号室根バイパス工区

○事業概要

内陸（一関方面）と沿岸（気仙沼方面）を連絡する一関市室根町折壁～矢越地内の一般国道284号道路整備事業です。バイパスを整備し、交通の隘路区間（幅員狭小、線形不良、狭小歩道、JR大船渡線の桁下制限（H=4.1m）と踏切）の解消を図ることにより、安全で円滑な交通の確保を目指しています。



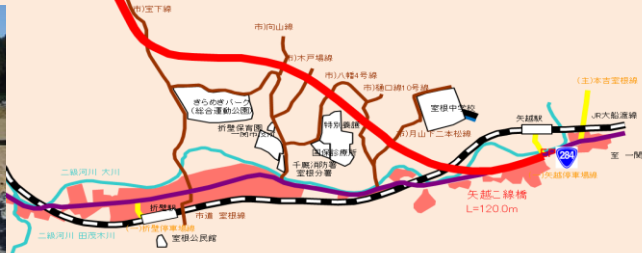
梅木こ線橋（上部工準備中）



大洞橋（施工中）



矢越こ線橋（施工中）



2. 主要地方道一関北上線 柵の瀬橋

一関市街地と北上川東部方面を連絡する橋梁事業です。老朽化の著しい（約50年経過）、歩道のない幅員狭小な橋を架け替えます。国土交通省が治水事業として整備を進めている一関遊水地事業と一体となって平成25年度から進めています。

平成28年9月に下部工が完了し、上部工は平成29年1月から着手する予定です。



3. 電線共同溝整備工事（中尊寺通り）

一般県道平泉停車場中尊寺線において、無電柱化を進めています。歩行空間を拡大し歩行者の安全と円滑な交通を確保して、電柱のないすっきりとした道路景観を創出し、中尊寺への参道としてふさわしい道路空間を目指します。

整備は、平泉駅前から中尊寺参道口までを5地区に分けて進めており、3地区（1・4・5工区）の工事が概ね完了しています。

今年度は、高館踏切部の拡幅が完成し、引き続き高館踏切部推進工事と、2工区共同溝整備の工事を行っています。

今後は、残る3工区及び中尊寺道踏切部の整備と石張舗装工事を進め、平成29年度の完成を目指し事業を進めていきます。



着手前状況（平泉駅前）



完成状況



整備区間

独自の取組等

1. 心を入れたおもてなしによるお客様サービス向上に向けた取組

● 接遇力向上に向けた取組

許可申請や打合せ等で来庁されるお客様に対し、職員が一体となって気持ちの良い対応ができるよう、接遇研修を実施するなど接遇力の向上に努めています。

● お客様をお迎えするための環境整備

受付を配置し、お客様の案内をスムーズに行うとともに、丁寧な対応ができるよう打合せスペースを確保するなど来客対応の環境整備に努めています。



2. 職員の能力開発に向けた取組

職員が講師となって、自ら取得した知識や業務経験を他の職員に伝える研修会を、全職員持ち回りで定期的開催し、職員個々のスキルアップやプレゼンテーション能力の向上に取り組んでいます。

